

一、豆太はどんな子でしょう。豆太のことが分かる分かったことや思ったことを書きましよう。

豆太のことが分かる言葉

予想される子どもの考え

- ・おくびよう
 - ・もう五つ
 - ・夜中に一人でせっちん
 - ・一人じゃしょんべんもできない
 - ・「じさまあ。」
- たった二人でくらしてしてる豆太

分か

二、豆太はどんな子でしょう。一言で表しましよう。

○そのわけを書きましよう。

(はじめ)

(中)

(終わり)

- 一言のれい
- ・おくびよう
 - ・弱虫
 - ・五つ
 - ・二人ぐらし
 - ・あまえんぼ
- べつのことば(白分の考え)

例をあげておくのはいいことか。悪いことか。このように学ぶに慣れた子どもには全く必要ないと思うが……。

基本的な授業の流れ

一、課題一に取り組む(ひとり勉強)

二、課題一について発表する(みんな勉強)
 ・可能ならば、本時の場面の文章を掲示し、子どもの発表の言葉や文に色分けして線を引く(準備物)

三、深める(子どもの発表をもとに深める)
 ・深めるための発問をいくつか用意しておく
 ※教師の出番

① 深めるための発問1

「せっちんは、どこにあるの。」
 「あかりは、あるの。」

←
 ・せっちんは、家の外
 ・この時代だから、あかりはない
 まっくら

まだ五つだから、一人でせっちんに行けなくても無理はないとも考えられる。おくびようともおくびようでないとも断定しなくてもよいと考えている。子どもの考えにまかせる。

② 深めるための発問2

「豆太のお父さん、おかあさんはどうしたの。」

③ 深めるための発問3

「豆太のおとうやじさまは、どんなりょうしなの。」

←
 ・「組うち」きもすけ「きもをひやす」のイメージ

以上の深めるための発問は一つの例にすぎません。また、この発問でよいのか百パーセントの自信はありません。実践でいろいろ試してほしいと思います。無責任ですみません。

※深めるための発問については、「「んぎつね」の項に詳述しています。

四、課題二に取り組む(一人勉強)

「今まで話し合ったこと(勉強したこと)をもとにして、まずこの場面のイメージを一言であらわしてみましよう。その後その理由を書きましよう。」

最初に豆太のイメージを一言で表しておく、どの子もまとめがしやすいようである。(新学習指導要領で登場した「自分の考えの形成と交流にあたる」)

一、昼間と夜の豆太の様子を比べてみましょう。

<p>昼間の豆太の様子が分かる言葉</p>	<p>予想される子どもの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やい、木い、モチモチの木い、 実い落とせえ。」 ・かた足で足ぶみ ・いばってさいそく 	<p>分かったこと 思ったこと</p> <p>深めるための発問 (ひとつの例にすぎません)</p>
<p>夜の豆太の様子が分かる言葉</p>	<p>予想される子どもの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜になると、豆太はもうだめなんだ。 ・「お化けえ。」って上からおどかすんだ。 ・しょんべんなんかでなくなっちゃう。 	<p>①『「やい」って、どんなとき使う言葉?』 ← ・けんか腰ではなすとき</p> <p>②『「落とせえ」ってどんな言い方?』 ← ・命令の言い方 ・落とせえ ・落としてください。</p> <p>③『「お化けえ。」って上からおどかすんだ。』 の中で、特にどの言葉が豆太の気持ちをあらわしていると思いますか。また、それはどうしてですか。</p> <p>④ どうしてしょんべんがでないの?こんな経験ありますか。</p> <p>※深めるための発問は、 ① 言語を豊かにする ② 言語感覚を鋭くする ③ 言語や文のきまりを身につけさせる ④ 長い文でなく、「特にどの言葉?」と問うことによって、より自分の考えを鮮明にさせる。 ⑤ 場面の様子や登場人物の気持ちなどをより豊かにイメージする。</p> <p>などを主なねらいとして行います。</p>

二、この場面の豆太を見て、あなたは どう思いま